



## 舌は何のためにあるの

### 舌には3つの役目がある

舌には、下のように、大きく分けて3つの役目があります。

- ・舌は、口の中に入ってきた食べ物を動かし、かめるように歯の上へのせたり、だ液と混ぜ合わせたり、飲みこむために、おくの方へおしこんだりしています。
- ・舌には、味蕾とよばれる味を感じるものがついていて、あまい、すっぱい、塩からい、苦いなどの、味を感じるはたらきをしています。
- ・舌は、ことばをつくるはたらきをしています。のどのおくにある、声帯というところで生まれた声は、舌がいろいろな形に変化して、それぞれの音をつくり出さなければ、ことばとして聞こえてこないのです。

### 舌で味がわかるのは

舌で味がわかるのは、舌には味覚芽または味蕾とよばれる、味を感じる装置のようなものがあるからです。味蕾は舌のねん膜（湿ってねばねばしたうすい膜）の決まった場所があり、タコつぼのような穴になっています。この中には味細胞がつまっております、ここへ脳からきた味覚神経がのびてきて、味細胞につながっています。

口に食べ物が入り、舌にある味蕾の味細胞にふれると、それが味細胞につながっている味覚神経から脳へ伝わり、わたしたちは味を感じるというわけです。（監修・保志 宏）

